

藤皇后、天皇に奉る御歌一首

一六五八番

我が背子と 二人見ませば いくばくか この降
る雪の 嬉しからまし

他田広津娘子の歌一首

一六五九番

真木の上に 降り置ける雪の しくしくも 思ほ
ゆるかも さ夜問へ我が背

大伴宿禰駿河麻呂の歌一首

一六六〇番

梅の花 散らすあらしの 音のみに 聞きし我妹
を 見らくし良しも